

# 登別市事業仕分け調書

平成22年度作成

<b>番号</b>	A - 3	<b>事務事業名</b>	成人祭
-----------	-------	--------------	-----

<b>部 名</b>	教育部	<b>グループ名</b>	社会教育G
------------	-----	--------------	-------

<b>事務事業コード</b>	52311004	<b>事業開始年度</b>	昭和 29 年度	<b>事業終了予定年度</b>	平成 - 年度
----------------	----------	---------------	----------	-----------------	---------

<b>関連事務事業名</b>	
----------------	--

<b>事務事業の実施根拠</b> (根拠となる法令・条例・規則・要綱等)	<b>種別</b>	5 市単独で実施している事務事業
	<b>法令等名</b>	
	<b>法令等の内容</b>	

<b>実施方法</b>	市が直接実施
	民間等へ業務委託または指定管理 (委託先: )
	補助金 (補助先: )

## 事務事業の目的と内容

<b>対象</b>	(何を対象にまたは誰を対象にした事務事業なのか。地域や年齢等が限定される場合は詳細に記入)
	新成人(登別市に住民登録している方、他市町村に居住する方で登別市への出席を希望される方) 平成23年成人祭は平成2年4月2日から平成3年4月1日までに生まれた方
<b>事業の目的</b>	(何のために事業を実施したのか。または何のために事業を実施しているのか)
	大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます。 新成人が、自分たちをこれまで育ててくれた家庭、学校、地域に対する感謝の気持ちを新たにしてみようと同時に、次の世代の担い手として、積極的に地域づくりに参画するためのきっかけとなってもらおう。
<b>事業の内容</b>	(事業の内容【手段・手法・活動など】)
	登別市内に居住する若者たち数名から構成される成人祭実行委員会を立ち上げ、会場や式典の内容等を決定するほか、式典の準備、当日の運営等を行う。 【平成22年成人祭内容】 会場 登別マリンパークニクス(アシカショープール) 出席者数 364名(対象648名、出席率56.1%) オープニング アシカショー 式典 登別市長祝辞・登別市議会議長祝辞・新成人代表による誓いの言葉 アトラクション 登別市内の各企業からの協力による抽選会

## 事業費

区 分			単位	20年度 決算額	21年度 決算見込額	22年度 予算額
<b>事業の財源内訳</b>	国庫支出金	名称	千円			
	道支出金	名称	千円			
	その他	名称	千円			
	地方債			千円		
	一般財源			千円	483	460
合 計				483	460	496

<b>上記事業を実施するために必要となる人件費(概算)</b>	<b>職 員</b>	千円	1,397	1,332	1,396
	<b>嘱 託 員</b>	千円	0	0	0
	<b>臨時職員</b>	千円	0	0	0
	<b>合 計</b>		1,397	1,332	1,396

<b>総合計(合計 + 合計)</b>	千円	1,880	1,792	1,892
---------------------	----	-------	-------	-------

<b>事業費内訳</b>	(22年度予算ベースの事業費の具体的な内訳【節名ごと】)				
	報償費	40,000円	オープニング謝礼(三味線演奏等謝礼)		
	需用費	36,000円	ロール紙・色紙・インクマスター・インカードリッジ		
	消耗品費				
	使用料及び賃借料	420,000円	ニクス会場借上料		

番号	A - 3	事務事業名	成人祭
----	-------	-------	-----

部 名	教育部	グループ名	社会教育G
-----	-----	-------	-------

### 活動実績

活動指標名 (事業のこれまでの実績【数量・回数・人員等】)	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込み)
成人祭への参加数	人	417	364	400
成人祭の参加者率(参加者数/対象者数)	%	61.7	56.1	60.0

### 成果

事業の成果	(事務事業を実施したことでのどのような成果が得られたのか。現状の成果)
	<p>成人祭の「大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます。」目的は、式典を実施することにより達成されている。</p> <p>若者による実行委員会で成人祭の企画を毎年検討し、式を運営することにより、自らの手で作り上げたという達成感と将来のまちづくりの担い手としての機運の醸成が図られている。</p> <p>同世代の実行委員が企画立案した成人祭の参加を通じて、成人としての自覚を共有するとともに、地域で新成人を祝うことにより郷土愛が育成されている。</p>

### 担当部による評価

事業の自己評価	(事業の今後の方向性、課題等)
	<p>当市の成人祭は、全国的な問題ともなった式典中のマナー悪化等を背景に、成人式の意義、あり方を再検討するとともに、自らの手で成人祭を企画・運営する実行委員会を立ち上げ、検討を重ねている。</p> <p>実行委員会では、今までの格式ばった成人式ではなく、式典的要素は残しながらも、参加者が楽しめ、記憶に残る登別らしい成人祭を行いたいとの意思から、マリパークを会場にイベントも取り入れながら実施してきており、参加者の評判もよい。</p> <p>マリパークを会場とすることにより、会場借上費などの経費がかかるが、今後も実行委員会の意見を伺いながら、時勢に合った成人祭を実施していきたい。</p>

### 他の自治体の状況

比較参考値	(他の自治体での類似事業の状況)
	<p>【室蘭市】</p> <p>企画・運営 実行委員会形式</p> <p>行事内容 第1部式典(国歌斉唱、市長挨拶、来賓紹介) 第2部祭典(よさこい、のど自慢、新成人によるライブ、抽選会等) 記念行事(卒業アルバム展示、恩師のお祝いメッセージ、お茶、琴の演奏)</p> <p>【伊達市】</p> <p>企画・運営 実行委員会形式</p> <p>行事内容 式典(国歌斉唱、市長挨拶、来賓紹介、成人の誓い) アトラクション(バンド演奏)</p>

### 特記事項

事業の沿革等	(事業の変遷)																																															
	<p>昭和29年より成人祭を実施。</p> <p>平成5年より、会場を市民会館からマリパークニクスに変更。実行委員会の立ち上げ。</p> <p>平成17年より経費削減のため景品(テレホンカード、図書券、書籍等)を廃止。</p> <p>平成2年からの出席者実績は次のとおり。( )内は参加率</p> <table border="1"> <tr> <td>平成2年</td> <td>604名(60.9%)</td> <td>平成10年</td> <td>545名(62.0%)</td> <td>平成18年</td> <td>443名(63.6%)</td> </tr> <tr> <td>平成3年</td> <td>581名(54.6%)</td> <td>平成11年</td> <td>535名(71.0%)</td> <td>平成19年</td> <td>448名(73.4%)</td> </tr> <tr> <td>平成4年</td> <td>629名(63.3%)</td> <td>平成12年</td> <td>552名(75.8%)</td> <td>平成20年</td> <td>417名(58.4%)</td> </tr> <tr> <td>平成5年</td> <td>691名(68.3%)</td> <td>平成13年</td> <td>501名(76.1%)</td> <td>平成21年</td> <td>417名(61.7%)</td> </tr> <tr> <td>平成6年</td> <td>651名(61.4%)</td> <td>平成14年</td> <td>485名(75.0%)</td> <td>平成22年</td> <td>364名(56.1%)</td> </tr> <tr> <td>平成7年</td> <td>668名(65.3%)</td> <td>平成15年</td> <td>465名(70.7%)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成8年</td> <td>616名(65.4%)</td> <td>平成16年</td> <td>517名(65.9%)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成9年</td> <td>587名(65.1%)</td> <td>平成17年</td> <td>486名(64.1%)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成2年	604名(60.9%)	平成10年	545名(62.0%)	平成18年	443名(63.6%)	平成3年	581名(54.6%)	平成11年	535名(71.0%)	平成19年	448名(73.4%)	平成4年	629名(63.3%)	平成12年	552名(75.8%)	平成20年	417名(58.4%)	平成5年	691名(68.3%)	平成13年	501名(76.1%)	平成21年	417名(61.7%)	平成6年	651名(61.4%)	平成14年	485名(75.0%)	平成22年	364名(56.1%)	平成7年	668名(65.3%)	平成15年	465名(70.7%)			平成8年	616名(65.4%)	平成16年	517名(65.9%)			平成9年	587名(65.1%)	平成17年	486名(64.1%)	
平成2年	604名(60.9%)	平成10年	545名(62.0%)	平成18年	443名(63.6%)																																											
平成3年	581名(54.6%)	平成11年	535名(71.0%)	平成19年	448名(73.4%)																																											
平成4年	629名(63.3%)	平成12年	552名(75.8%)	平成20年	417名(58.4%)																																											
平成5年	691名(68.3%)	平成13年	501名(76.1%)	平成21年	417名(61.7%)																																											
平成6年	651名(61.4%)	平成14年	485名(75.0%)	平成22年	364名(56.1%)																																											
平成7年	668名(65.3%)	平成15年	465名(70.7%)																																													
平成8年	616名(65.4%)	平成16年	517名(65.9%)																																													
平成9年	587名(65.1%)	平成17年	486名(64.1%)																																													